

えりの研究 — I

形状の地域差について

山村金之助

びわ湖のえりは独特の漁法として有名であるが、湖の風物誌としても欠かせない存在となっている。えりについての伝承は数多く語り継がれているが、漁具としてのえりを科学的に解明した研究は少ない。えりの形状についての研究には測量等に多大の労力を必要とするので、従来は敬遠されていたのであるが、筆者は昭和35～37年度を中心として作成された国土地理院のびわ湖々沼図にえりの形状が記載されていることに着目して、若干その解析を試みたのでその結果を報告する。

材料および方法

国土地理院のびわ湖々沼図は地域別に次の年度に測量が実施されている。

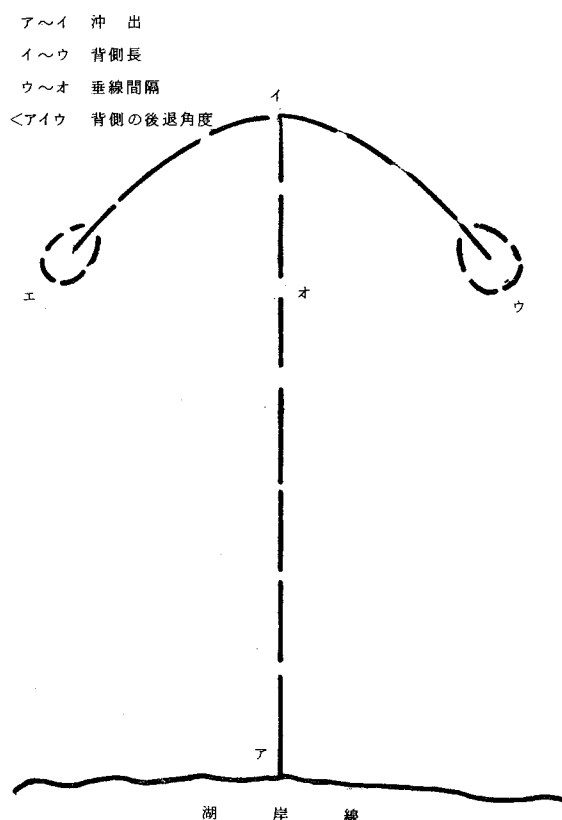
昭和30年10月	南湖水域
昭和31年9月	長命寺～野洲川水域
昭和32年10月	小松～木戸水域
昭和35年～37年	その他の北湖水域

また湖沼図のえりの図型は第1図のように簡略した形で表現されている。これは第2図のえりの各部名称図と対比するとセガワの最先端とカガミの最先端およびミチズの基点の位置が表されており、荒目えりと細目えりの区別やツボの数等は不明である。

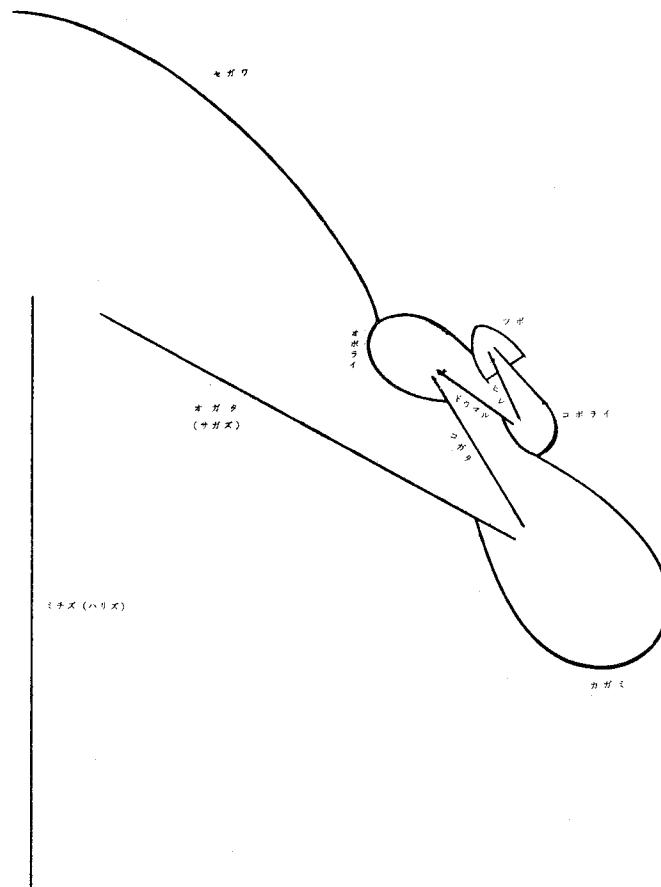
さらに湖沼図には既に消滅している早崎内湖や津田内湖のえりと現存する松の木内湖のえり、新旭町中島水路の川えりや新旭町一帯の湖岸部よし地にある16統の小型のえりが記載されているが、便宜上今回の考察の対象としなかった。

とりまとめ結果

びわ湖を湖東部と湖西部および湖南部の3水域に区分して、沿岸部の全てのえりの所在地や形状をとりまとめたのが第1表である。



第1図 湖沼図のえりの表示法



第2図 えりの部分名称

この表の表頭の各項目について説明すると、次のとおりである。

沖出し — 湖岸線とセガワ最先端との距離

実沖出長 — 道簀の基点が湖岸線と離れて沖合にある場合、道簀の基点とセガワ最先端との距離

先端水深 — セガワの最先端位置の水深

背側長 — セガワに用いた簀の長さではなくて、セガワ最先端とカガミの最先端との直線距離

背側の後退角度 — 上記の直線と道簀とのなす角度

非対象 — えりの左右の形が非対象の場合の特徴点

えりの分布は湖東部19統、湖西部17統に比べて、湖南部が31統と多く波浪が小さいことが大きな立地要因となっている。沖出距離の平均は湖南部が187mと最大で、湖東部は178mと大きな差はなく、湖西部は131mと前2者に比べて約50m程短かくなっている。これは湖西部沿岸帯の水深が急深であるから沖出距離を長くとれないことに起因している。

県下で最大の沖出距離を持つえりは、やはり大えりの伝統を引継いでいる木浜にあり、400mの沖出距離である。最小の沖出のえりは、湖西部の和邇川尻南側にある今宿のえりでその沖出距離は40mである。

沖出距離とは別に実沖出長の平均では、湖南部184m、湖東部164mで、沖出距離とそれぞれ3m、14m差であるが、湖西部は110mと21mも差がある。これは今津町貫川、安曇川町鴨川尻附近のえり

第1表 国土地理院湖沼図によるえりの形状

水域	場所	沖出	A 実道 管長	背側 長	B かかろ と道 の間隔	B A	先端 水深	かかろの深さ		背側の 後退角	先端部 底質	非対象	備考
								右	左				
湖 東	沙婆干拓南	170	170	55	40	0.24	3.7	3.4	3.7	40	M		
	塩津蓄養池	170	170	50	30	0.18	5.3	5.2	5.4	32	M		
	同対岸	170	170	50	35	0.21	4.5	4.5	4.3	41	M	右開	
	西野水道	180	180	60	35	0.19	5.6	5.6	5.2	42	CSM	右短	
	片山	170	170	50	30	0.18	3.3	2.9	3.0	38	MS		
	尾上	200	200	50	30	0.15	3.0	2.6	2.0	35	"		
	"	105	105	35	30	0.29	1.3	1.0	1.1	50	M		
	"	200	200	50	35	0.18	2.2	2.0	2.1	43	fM		
	"	160	80	70	40	0.50	1.6	1.3	1.3	34	SM		荒目
	"	230	160	130	36	0.23	1.6	1.1	1.5	36	S	右短	荒目
	早崎	160	140	40	25	0.18	1.0	1.0	1.0	35	"		
	八木浜	220	220	60	45	0.20	2.2	2.1	1.7	51	CS	右短	
	姉川尻	150	150	55	50	0.33	4.6	3.5	3.5	50	"	左開長	
	南浜漁港	180	180	55	50	0.28	6.0	7.0	3.5	59	M		
相撲	90	90	50	45	0.50	1.6	1.5	1.6	60	S			
長命寺	175	175	50	30	0.17	2.0	1.8	1.5	41	"			
"	205	205	30	18	0.09	1.8	1.6	1.9	35	SM			
野洲川北流	255	155	43	35	0.23	7.3	7.1	6.9	43	S			
"南流	190	190	60	35	0.18	5.0	4.5	4.5	36	"			
湖 西	知内川尻	110	110	45	30	0.27	6.5	6.0	5.0	47	MS		
	浜知内	110	110	60	42	0.38	4.8	3.5	3.5	53	S	左開	
	貫川	200	130	55	35	0.27	4.8	4.0	4.0	35	fS	右短	
	"	200	150	60	40	0.27	4.7	4.0	4.1	37	S		
	"	170	150	60	35	0.23	4.2	3.4	3.5	40	CS		
	浜分	180	160	50	30	0.19	5.5	4.1	4.2	31	S		
	"	160	140	50	35	0.25	4.5	3.7	3.8	37	CS		
	木津	55	55	30	25	0.45	2.0	1.5	1.5	42	fMS		
	"	90	55	35	25	0.45	2.1	2.0	1.9	47	"		
	四津川	150	150	60	45	0.30	1.7	1.3	1.3	42	S	右短開	
	横江浜	180	120	60	40	0.33	6.0	4.9	4.0	40	"	右長	
	鴨川西	140	100	50	35	0.35	5.6	4.8	4.9	41	M		2段えり
	"	220	180	40	30	0.17	8.2	7.6	7.8	43	"		
	三矢	170	100	40	30	0.30	2.7	2.6	2.7	42	SM		
八屋戸川尻	70	55	40	35	0.64	5.5	4.5	4.0	50	fSM			
喜撰川尻	110	110	55	40	0.36	6.0	3.5	4.0	36	M			
今宿	40	40	40	40	1.00	5.5	4.5	4.5	61	fS	左開		
小野	150	150	55	45	0.30	3.5	2.5	3.5	44	"			

水域	場所	沖出	A 実道 簧長	背側 長	B かがみ と道簧 の間隔	B — A	先端 水深	かがみの 深 さ		背側の 後退角	先端部 底 質	非対象	備 考	
								右	左					
湖	新 田	180	180	60	30	0.17	2.5	2.4	2.2	35	MS	左 開		
	"	240	240	55	35	0.15	2.5	2.4	2.2	35	"			
	"	180	180	40	25	0.14	1.8	1.7	1.6	35	"			
	木 浜	180	180	60	50	0.28	1.0	1.0	1.0	50	M			
	"	400	400	85	60	0.15	1.3	1.2	1.3	46	"			
	"	150	150	50	35	0.23	1.3	1.2	1.2	37	S			
	"	265	265	60	45	0.17	1.3	1.4	1.4	43	"			
	"	250	250	60	50	0.20	1.7	1.4	1.5	48	"			
	"	350	350	60	35	0.10	2.1	1.8	2.1	41	SM			
	"	170	170	50	28	0.16	1.6	1.4	1.5	36	"			左 開
	放 竜 川	280	200	60	45	0.23	1.6	1.4	1.5	37	M			
	赤 の 井	90	90	50	35	0.39	1.5	1.5	1.5	45	"			
	"	200	200	60	50	0.25	1.6	1.5	1.5	38	"			
	鳥 丸 岬	185	185	60	50	0.27	1.6	1.5	1.4	50	S			右 短
"	210	210	80	55	0.26	1.5	1.4	1.4	45	SM				
下 寺	150	150	70	45	0.30	1.7	1.5	1.6	28	MS				
志 那 中	180	180	55	40	0.22	1.4	1.3	1.3	37	M				
志 那	185	185	70	50	0.27	1.6	1.5	1.4	40	"	左長開			
"	260	260	75	55	0.21	1.4	1.3	1.3	40	SM				
平 湖	220	220	70	50	0.23	1.5	1.4	1.4	40	"				
蓬 原 堀	250	250	80	50	0.20	1.4	1.3	1.3	38	"	左 長			
山 寺 川	120	120	35	30	0.25	1.5	1.4	1.5	47	S				
十 二 川	115	115	40	25	0.22	1.8	1.5	1.7	35	MS	2 段えり			
矢 橋	240	240	40	30	0.13	2.5	2.4	2.4	36	"				
"	120	120	45	25	0.21	2.1	1.9	1.9	26	"				
"	110	110	50	25	0.23	2.0	1.8	1.8	29	"				
"	140	140	50	30	0.21	2.0	1.8	1.8	31	"				
"	125	125	50	30	0.24	2.2	2.0	2.1	30	"				
瀬 田	100	100	30	25	0.25	1.5	1.4	1.5	45	"				
"	80	80	40	20	0.25	1.6	1.6	1.5	35	M				
"	90	90	40	20	0.22	1.0	1.0	1.0	47	"				
"	85	85	40	20	0.24	1.0	1.0	1.0	35	"				

の道簧の起点が、湖岸からかなり離れて沖合にあることに起因している。

背側長の平均は湖南部 55.8m、湖東部 54.9m、湖西部 49.1m とあまり大きな差はない。県下最大は尾上南のえりの 130m で、早崎内湖入口の特殊な形のえりである。

かがみと道簧の間隔（えりの横幅）は、湖南部 37.8m、湖東部 37.3m とほぼ等しく、湖西部は

第2表 水域別平均値

項目 \ 水域	湖 東 部	湖 西 部	湖 南 部
えり数	19	17	31
沖出	177.9 m	130.9 m	186.6 m
実沖出長	163.7 m	109.7 m	184.0 m
先端水深	3.34 m	4.60 m	1.65 m
背側長(A)	548.9 m	491.2 m	558.0 m
垂線間隔(B)	372.6 m	354.1 m	378.4 m
$\frac{B}{A}$	0.23	0.32	0.21
右かがみの深さ	3.14 m	3.74 m	1.54 m
左かがみの深さ	2.93 m	3.72 m	1.55 m
背側の後退角度	42.16°	42.76°	38.87°

35.4mと幅が狭い。この間隔と実道簀長との比は、従来のえり建設の常識としては0.25ぐらいが適当といわれていたが、湖東部は0.23、湖南部は0.21、と標準より道簀の長さがやや長い傾向であるのに対して、湖西部は0.32と道簀に対して横幅の割合が大きくなっている。

次にえりの最先端部の平均水深であるが、湖西部4.6m、湖東部3.3m、湖南部1.7mと各水域の地理的な特性をよく表現した水深となっているが、一般的に従来想定していた水深よりは、実体は大分浅いことが明らかとなった。

かがみ先端部の深さは、湖西部と湖南部は左右がほぼ等しかったが、湖東部は右側が3.14m、左側が2.93mとやや右側が深い位置にある。

背側の後退角は、従来の常識とは全く逆で、湖南部が38.9°と一番尖鋭な形状で、湖西部42.8°と湖東部42.2°とは大差がなかった。

左右の形状が非対象のえりは、3水域ともそれぞれ5統ずつあり、出現率でいうと湖東部26%、湖西部29%、湖南部16%という割合であったが、ここで取揚げた非対象のえりは一見して奇型と判るものばかりを抽出した結果であり、細かく見ると左右の形状が若干違うえりが大部分を占め、左右が全く対象型のえりは非常に少ないことが明らかとなった。

2段えりは湖西部の鴨川尻西と湖南部の矢橋十二川尻に各1統あった。